

特集

キャンピングカーで 自然児をつくる

幼い頃の自然体験が子供を伸ばす

元気な子供

思いやりのある子供

みんなを明るくしてくれる子供

親ならば、誰もが子供にそう育ってほしいと願っている

その秘訣がひとつある。

それが「親子で楽しむキャンピングカー旅行」

キャンピングカー旅行を通じて「自然」と親しませることが、

子供の感性を伸ばし、「人間力」を形成させると考える人たちが増えている

「キャンピングカーで自然児 (Child of Nature) をつくる」

21世紀の子育てのテーマはそこから始まる



Campingcar Makes Child of Nature



ねえ……
ちょっと待ってよ!



キャンピングカーは子供の情操教育に有益 そう思う親が7割以上を占める (RV協会プチアンケートより)

一般社団法人日本RV協会(JRVA)の調査によると、キャンピングカーには親子のコミュニケーションを密接にしたり、子供の感受性を豊かにさせる「力」があると考えているユーザーが相当数いることが分かった。特に親子でキャンピングカー旅行を行うことで子供の情操を高めたり、しつこくを学ばせることができると考える人たちは、キャンピングカーユーザーの75.3%に及んだ。

また、キャンピングカー旅行にそのような効果があることを実感したきっかけとして、「1台のクルマの中で話す機会が作れたので、家族の団らんが得られたから」と答えた人が40.6%にのぼり、次点として「旅先で自然に接し、自然に対する理解が深まったから」と答えた人も35.3%いることなども合わせて判明した。

この調査は、日本RV協会(JRVA)が、

2010年の11月1日から12月1日におよぶ1ヵ月間、同協会のHPを閲覧するキャンピングカーユーザーを対象に行ったもの。

一番目の調査では、「キャンピングカーは子供の情操教育やしつけに有益だと思いますか? それともそれほど有益だとは思いませんか?」という設問を設け、HPを閲覧した読者に、五つの選択肢のうちの一つを選んでもらった。

その結果、「有益」と答えた人の数は、全投票数202票のうち、104票(51.5%)を獲得。また「どちらかというと、有益」と答えた人の数も48票(23.8%)となった。

多少の意識の差はあるにせよ、この二つの回答者数を足してみると、152票となり、パーセンテージでいえば全体の75.3%の人が、「キャンピングカーは子供情操教育やし

つけに有益」と考えている様子が浮かび上がった。

ちなみに、それ以外の答として、

「(有益かどうかは)どちらともいえない」
(38票 18.8%)

「どちらかというと、有益ではない」
(4票 2.0%)

「有益ではない」(8票 4.0%)

という結果となり、多くの回答者が「有益」として認めている結果となった。

また、二番目の調査では、「キャンピングカーが子供の情操教育に役立ったり、家族の絆を強めたとしたら、それはどんなところで感じましたか?」という設問を設け、六つの選択肢を設けてひとつだけ答えたもらった。

その結果、全投票133票のうち、「クルマの中で話す機会が作れたので、家族の団らんが得られた」
(54票 40.6%)

「旅先で自然に接し、自然に対する理解が深まった」
(47票 35.3%)

「家族・兄弟間の絆が深まり、人に思いやりを抱くようになった」
(17票 12.8%)

「キャンプ道具やキャンピングカー設備の扱い方を学ばせたので自立心が芽生えた」
(12票 9.0%)

「食事の好き嫌いがなくなった」
(3票 2.3%)

「早寝・早起きの習慣が身についた」
(0票 0.0%)

という結果となった。

このように、キャンピングカーの教育効果に着目する人が増えていることは、「キャンピングカー白書2010」(2010年8月発行)のデータからも裏付けられる。

同白書では、キャンピングカーを購入する前と購入した後の「家族関係の変化」を調査しているが、それによると、キャンピングカーを購入したことによって、62.4%の人が「家族との会話で、キャンプ、旅行、温泉などの共通の話題を持てるようになった」と答え、46.4%の人が「夫婦、子供たちとの団らんの時間が増えた」と認めている。

さらに、17.4%の人が「釣り、スキーなど家族で共有できる趣味が増えた」という回答を寄せている。(いずれも複数回答)

このように、キャンピングカー旅行を経験することによって、家族の絆が強くなり、コミ

ュニケーションが活発になるということは、ユーザーの間では共通認識となっているようだ。現代社会では、共稼ぎ夫婦が増えて、家族の帰宅時間がまちまちとなったり、子供が夕方から塾に通うなど、親子そろって団らんを持つという機会が乏しくなっている。

また、核家族化が進行し、兄弟の少ない子供たちがみな個室を持つなど、親子が「顔を合わせない」日常が続くことも珍しくない。

そのようなとき、キャンピングカーの車内で家族が顔を合わせて食事を取ったり、車外に出て共に自然に接したりすることは、“失われた団らん”を取り戻すための絶好のチャンスであるかもしれない。